



新明倫

鍛英親
錬知愛

高鍋西中学校
学校だより
平成30年3月30日

今年は、桜の開花が昨年よりも10日以上も早く、皆さんがこの「新明倫」をご覧になっている頃には、きっと満開になっていることでしょう。卒業式、修了式、そして本日は先生方の離任式でした。冬が去り、春が訪れ、そしてまた新たな出会いあり、それぞれの希望のスタートです。

卒業式 感動をありがとう

3月16日（金）に高鍋西中学校第71回卒業式が挙行されました。「語り継がれる卒業式」を合い言葉に学年の始まりから、ここをゴールに置いて1年間をつくり上げていきました。立志式から始まる数々の学校行事に全て「義務教育最後の」という冠詞が付きましました。生徒はそれぞれに最高のものを創ろうと全力で臨んだものです。

数々の思いがこみ上げてきたのでしょうか。入場から目を真っ赤にしている卒業生もいました。卒業証書授与では一人一人が気持ちのこもった返事をしました。在校生代表して河埜直人くんが送辞を述べ、岡次秋恵さんが卒業生を代表して答辞を述べました。卒業生は思いはしだいに一つになっていきます。そして、卒業式の歌のすばらしさ。高校入試の勉強のさなかにも歌声は校舎に響いていました。式では「合唱の西中」の面目躍如（めんもくやくじょ）、会場の至る所から感動の鳴咽（おえつ）が漏れていました。「語り継がれる卒業式」は後輩たちが語り継ぎ、越えていく目標になっていくことでしょう。



古希を迎えられた卒業生から

3月22日（水）に今年古希（70歳）を迎えられた卒業生を代表して、7名（代表：橋本美恵子さん）の方が本校校長室に來られ、「西中のために使ってください。」と金一封をいただきました。しばし、中学校時代の話に花が咲きました。当時の西中のこと、今の西中のこと、いろいろな先生の思い出、そして今も心は当時の中学生のままであること等々。この母校のために少しでも役に立ちたいと、皆さん口をそろえておっしゃってくださいました。70歳になっても、友達は友達、恩師は恩師、母校は母校です。卒業生の皆さん、いただいたお金は母校のため、後輩たちのために大切にに使わせていただきます。



性教育を行いました

性教育については、すでに2学期に実施しましたが、3年生は県立高校の入試が終わった3月8日（木）にも「か母ちゃっこクラブ」の方に来ていただいて再び行いました。これから高校生になり、より身近な問題としてしっかりと責任を果たしていかなくてはならない3年生は真剣に聴いていました。

生徒の感想を一部紹介します。

- 自分は「性」ときいたら変な意味に捉えていましたが、今回の講話では逆に素晴らしいことだと思いました。
- 男子と女子とで考え方に違いがあることが分かった。また、考え方に違いがある分しっかりと自分の意見を相手に伝えることで、防ぐことできることもあると感じました。

